

# まちひとしごと

Vol. 20

Cafe909 小山 俊徳 さん



## 支えてくれる方々に感謝して

**駅** 前通りからほど近く、以前も喫茶店として営業していた場所。11月から『Cafe909』を開店した小山俊徳さんに話を聞いた。

小山さんは、札幌市に生まれ育ち、市内の高校を卒業後に飲食店経営を行う会社に就職した。

「飲食店での接客や、経営について経験を積む中で、人と接することの楽しさと飲食店経営の面白さに惹かれていき、いずれは自身の店を持ち独立を、と考えるようになりました」

その頃、この夏に倶知安町で実施されるまちなか広場での出店者募集の話を知り、迷うことなくチャレンジを決めたという。

「まちなか広場での約1カ月間、来てくれたお客さんはもちろん、さまざまな形で多くの町の人に協力を頂いたことが、倶知安で自身の店を、と考えるきっかけになりました」

そう考え始めた小山さんだったが、20代前半の若者が、縁もゆかりもない土地で事業を始めるというのは、途方もなく難しいことのように思われた。小山さんは、悩むより先に、まず挑戦することを大切にしていると話していた。そんな彼の周りには、いつも彼を支える人たちがいて、絶好のタイミングで機会を与えてくれている。

「まちなか広場への出店を勧めてくれた方や、その間サポートをしてくれた方々が、よそから来た自分の夢を、この町でかなえさせてくれました。皆さんには本当に感謝しています」

開店から約3カ月、少しずつ町内の同業や取引先などの繋がりも増えてきた。

「同業の方たちのお店を見ても、自身のライフスタイルとお店がリンクしていたりして、仕事も趣味も、楽しんでる人が多いと感じます」

また、この町に暮らす先輩たちから貴重な経験などを聞かせてもらう機会もあるという。

「先輩たちのお話を聴かせてもらえることは、自分がこれまで生きてきた時間では、とても経験のでき

ないようなことばかりで、常に学ばせてもらっています。この町で暮らし始めてから、出会った人たちは温かい人ばかりで、それが倶知安の魅力なのではないかと感じています」

小山さんが昨年11月に開店した『Cafe909』は、以前に営業していた喫茶店を、内装も備品もほとんどそのまま使用しており、当時を懐かしんで訪れる客さんも多く、また、子育て世代のお客さんも多いのだという。

「観光客が多い町だというのはもちろん、これから新幹線の駅も開業すると聞いていましたが、実際にこの店を始めてからは、観光で訪れる方よりも、町内のお客さんが多いように感じています。以前のお店を懐かしんで来られるお客さんがいるように、今母親と一緒に来ている子どもたちが、大人になった時に懐かしんで訪れてくれるようなお店にしていきたいと考えています」

これまでは、自身の夢や目標のために行動してきたという小山さんは、この町に暮らし、町の人と繋がる中で、今後は自分のお店を通して、何か町の役に立つことをしていきたいと話していた。彼の夢はまだ始まったばかりだ。

※まちひとしごとは不定期連載です